

## 飲酒運転は依然として死亡交通事故の原因であり、生活を破滅させるものでもある

この数日間に市警とトロントのドライバーが巻き込まれた事件の見出しは以下のようなものだ。そしてこれらの事故に共通する要因はアルコールである。

- 1) 「一方通行逆走のために起きた事故の原因は酒酔い」 - 9月26日金曜日
- 2) 「酒酔い運転と見られるドライバーがパトカーに衝突」 - 9月27日土曜日
- 3) 「早朝の HWY400 で跨線橋に突っ込み死亡したドライバーは、速度違反と飲酒運転」 - 9月28日日曜日
- 4) 「DVP の逆走事故は飲酒運転の嫌疑」 - 9月29日月曜日
- 5) 「衝突事故で閉鎖した QEW、2レーンのみ開通」 - 9月30日火曜日

これまで何年も、(市の)救急関係者は MADD(酒酔い運転禁止母の会)や OCCID(オンタリオ酒酔い運転禁止住民の会)などの組織と共同して、飲酒運転の危険性に関する市民の関心を高める活動を進めてきた。

アルコールが絡む事故と、そういった事故で命を落とす人の数は過去 20 年間減少し続けている。これは、道路や水路はアルコールや薬物を用いてはならない場所という人々の認識が強まったための現象である。先週の事故多発状況に接して警官は、アルコールや薬物を摂取したとき人々はどうし

て車のキーを持たずに家を出、ないしは車を運転しないようにすることができないのか首をひねっている。市警はこの 4 日間で合計 41 人を飲酒運転関連で逮捕している。この数は昨年同期に比べ 3% の増加である。飲酒運転は、それを犯した人に危険をもたらすのみではなく、市内を行き来する人々の危険度を大幅に増加させている。

市警交通部の Earl Witty 副総監は最近の状況に接して、「飲酒して車を運転する人は、自分のみならず無辜の他人をも殺すことがありうることをしているのだ。そういった人々は、自分のそういった行動の責任が取れるのだろうか。

幸いにも人や自分を殺すことがなかったとしても、酒酔い運転で検挙されれば、その人の生活は一変する。検挙された人はまず犯罪者として扱われ、経済的にも大きな問題が起きる。州交通省によると、訴追された人は最低でも以下のような経済的な負担を負わなくてはならない。

推定される法廷費用 \$2,000 ~ \$10,000

罰金 \$600

社会復帰訓練費用 \$475

運転免許再発行 \$150

以上だけでも最低合計費用 \$4,525 になる。

実際の出費はこのほかに修理代、失職による収入減、保険対象外の医療費などを加え、この数字をはるかに超える。

連邦保険局の副局長 Don Forgeron は、このほかの経済負担について以下のように述べている。

「飲酒運転による、深刻で高額な保険がらみの経済負担はまだまだある。免許の再発行が受けられても保険会社は(飲酒運転を犯した人には)通常最大 3 年間付保を拒否

する。付保のためには高リスク保険を買わなければならない、保険料が年間数千ドルにもなってしまう。更に訴追されたドライバーはすべての優遇資格を失うので優遇保険料は一切受けられない。

トロント市警は、市内の道路、水路をできる限り安全なものにするために、安全に関わる法律を積極かつ油断なく執行することを公約している。この公約は、トロント市の市民が法規を遵守すると共に、違反を眼にした場合警察に通報することで最大の効果を発揮する。飲酒ないしは薬物摂取の影響下で運転をする、ないしは飲酒ないしは薬物摂取の影響下にあると思われる人が自動車ないしは船舶を運転しようとしているところを目撃した場合すぐに 9-1-1 通報していただきたい。

## JSS 説明

安全情報作成のために、警察が発表する報道向けニュース発表を見ていると、アルコールないしは薬物摂取が原因の自動車事故が大変頻繁に起きていることがわかる。この数日は、特にその種の事故発生が頻発し、警察が警報を発することになったようだ。

日本でもカナダでも、速度違反、無謀運転とならんで飲酒ないしは薬物摂取影響下の運転は、多くの自動車事故を引き起こす原因である。また、警察による重点取り締まりや、多くの組織のによる防止活動にもかかわらず、後を絶たないものでもある。

アルコールないしは薬物摂取が原因の自動車事故では、加害者は必ずしも危害を被害者に加えることを意図しなかったとはいえ、

被害者はもとより加害者にさえも悲劇をもたらすのが現実であり、その現実が人々に良く知られている以上、意図がなかったといった言い訳が通用しない。

自動車を運転する人は、こういった現実をしっかりと認識し、見知らぬ他人に悲劇をもたらすばかりでなく、自分自身を悲劇に陥れることがないようにしなくてはならない。